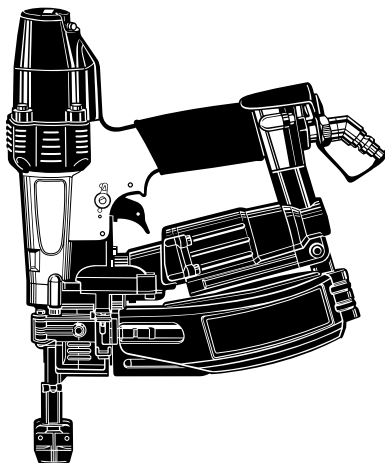
マックスねじ打機 ターボドライバ
TD-341G
TD-341G-ST

取扱説明書

⚠ 警 告

●使用前に必ず取扱説明書を読む。
●使用の際は、作業者およびまわりの人も必ず保護メガネを着用する。
●安全装置が完全に作動するか使用前に必ず点検する。正常に作動しない場合は使用しない。
●使用する時以外は絶対にトリガに指をかけない。
●射出口を絶対に人体に向けない。
●移動する時、使用しない時、調整・修理・プラシートねじ装填の時は必ずトリガをロックし、エアホースをはずす。
●フック使用の時は、必ずトリガをロックし、エアホースをはずす。
●エアコンプレッサ以外の動力源は絶対に使用しない。
●揮発性可燃物のそばで絶対に使用しない。
●異常を感じたら絶対に使用しない。

●この取扱説明書は常時内容が確認できるよう保管してください。
●本機の仕様は機能向上のため、予告なしに変更することがあります。

このたびは、マックスねじ打機ターボドライバをお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。本機の取扱いにあたって、この取扱説明書を最後までよくお読みください。使用上の注意事項、使用方法、能力などについて十分ご理解の上、安全に適切にご使用くださるようお願いいたします。

■表示について

⚠ 警告	この表示は、取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合を表しています。
⚠ 注意	この表示は取扱いを誤った場合に、使用者が傷害を負う危険が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される場合を表しています。また、取扱いを誤った場合には、ねじ打機本来の性能を発揮しないばかりでなく本機の損傷につながる事が想定される場合を表しています。

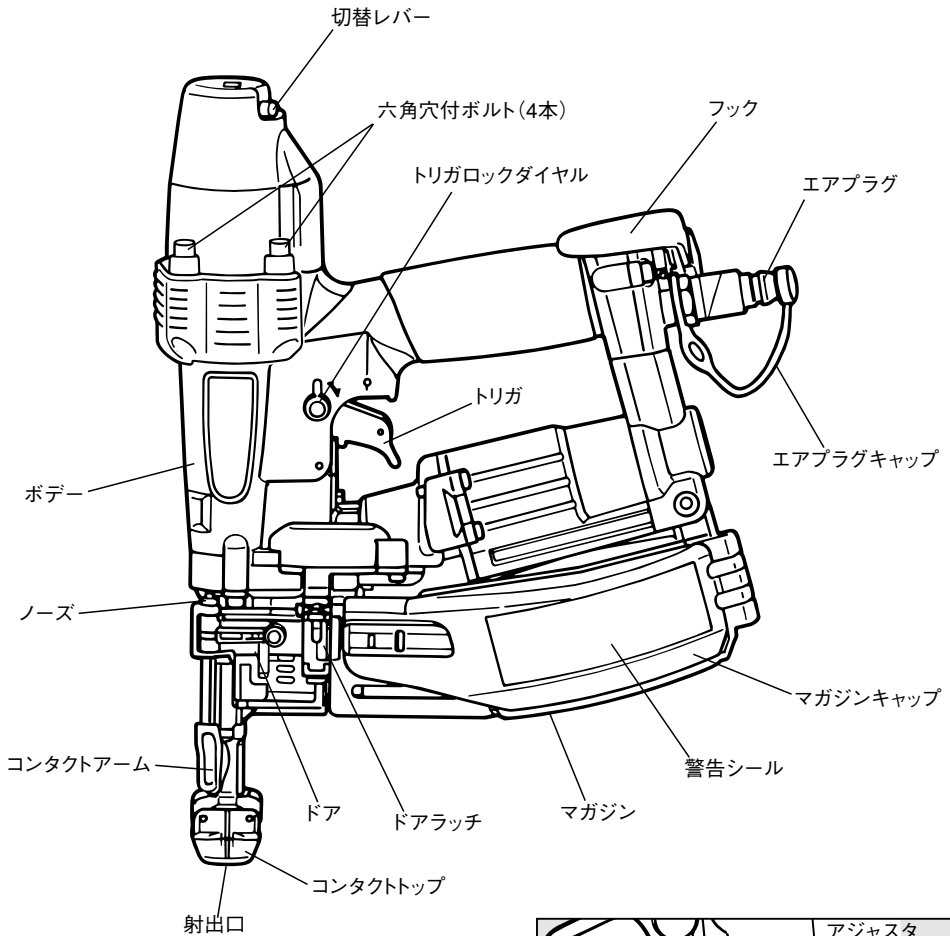
この表示は操作上のポイントおよび知っていると便利なことが書いてあります。

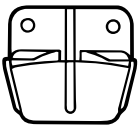
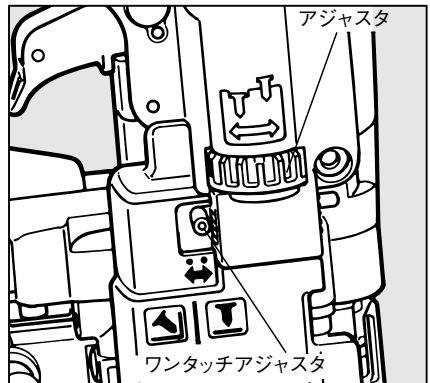
■絵表示について

この記号は「してはいけないこと」を意味しています。この記号の中や近くの表示は具体的な禁止内容です。

目　　次

1 各部の名称

切替レバー
六角穴付ボルト（4本）
フック
トリガロックダイヤル
エアプラグ
トリガ
エアプラグキャップ
ボデー
ノーズ
マガジンキャップ
コンタクトアーム
警告シール
ドア
ドアラッチ
マガジン
コンタクトトップ
射出口

〈付属コンタクトトップ〉

・**コンタクトトップL（透明）：t 9.5mmボード用**

薄鋼板下地へt9.5mm石膏ボードを取り付ける場合、付属のコンタクトトップL（透明）を使用してください。

安全作業のために

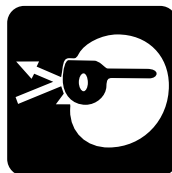
本機は、指定されたねじを「石膏ボードと木材」または「石膏ボードと建築用薄鋼板下地材」にねじどめすることを目的としたねじ打機です。指定以外の用途、使用方法は重大な事故につながる恐れがあります。この取扱説明書の記載事項を厳守してください。作業関係者以外、特に子供は作業場所に近づけないでください。また、本機に触らせないでください。

作業前

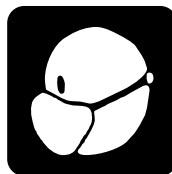
⚠ 警告

❶使用の際は、作業者およびまわりの人も必ず保護メガネを着用する。

ねじどめ作業をする時、締め損じのねじがはね返り、眼に入ると失明する恐れがあります。作業する本人はもとよりまわりの人も必ず保護メガネを着用してください。

❶

❷-1 防塵マスクを着用する。

ねじどめ作業をすると、ねじと石膏により粉塵が舞い上がります。その汚れた空気から鼻・咽喉・気管・肺を守るため防塵マスクを着用してください。

❷-1

❷-2 防音保護具を着用する。

ねじどめ作業をする時、排気音や排気エアから耳を守るため、作業環境に応じて防音保護具（耳栓等）を着用してください。

❷-2

❸作業環境に応じた防具を着用する。

作業環境に応じてヘルメット、安全靴等の防具を着用してください。

❸

安全作業のために

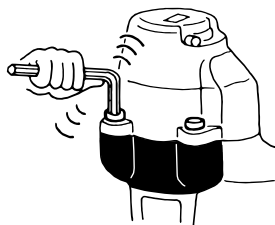
警告

❹エアホース接続前に必ず点検する。

エアホースを接続する前に下記の点検を必ず行ってください。

1. ネジの締め付けが緩んでいたり、抜けていないか。
2. 各部部品が外れていたり、傷んでいないか。
3. コンタクトアームがスムーズに動くか。
4. トリガをロック（引けないように固定）できるか。（11ページ参照）

不完全なまま使うと、事故や破損の原因となります。異常のある場合は、お買い求めの販売店又はマックスサービス㈱へ点検・修理に出してください。

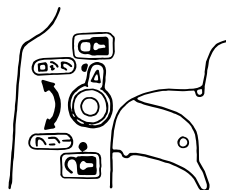
❹

❺エアコンプレッサ以外の動力源は絶対に使用しない。

本機はエアコンプレッサによる圧縮空気を動力源とする工具です。圧縮空気以外の高圧ガス（例：酸素、アセチレン等）を使うと異常燃焼をおこし爆発の危険を伴いますので、エアコンプレッサ以外は絶対に使用しないでください。

❺

❻エアホース接続の時には必ず厳守する。

エアホースを接続するときは誤って作動させないよう下記のことを必ず守ってください。

1. トリガをロック（引けないよう固定）する。
2. コンタクトアームに触れない。
3. コンタクトアームを押し上げた状態にしない。
4. 射出口を人体に向けない。

❻

安全作業のために

⚠ 警 告

❼エアホース接続時には必ず確認する。

使用前にはプラシートねじを装填しないでエアホースを本機に接続し下記の確認を必ず行ってください。

1. エアホースを接続しただけで作動音がしないか。
2. エアもれや異常音がしないか。

エアホースを接続しただけで作動したり、エアもれや異常音がする場合は故障しています。そのまま使うと事故の原因となりますので、絶対に使用しないでください。異常のある場合はお買い求めの販売店又はマックスサービス㈱に点検・修理に出してください。

❼

❽安全装置が完全に作動するか使用前に必ず点検する。正常に作動しない場合は使用しない。

使用前には必ず安全装置が完全に作動するか、確認してください。プラシートねじを装填しないでエアホースを接続し、トリガロックダイヤルをフリーにセットして確認してください。（11ページ参照）

※下記の場合には安全装置が故障していますから本機を絶対に使用しないでください。

1. トリガを引いただけで、作動音がする。
2. コンタクトアームを対象物に当てただけで、作動音がする。

異常のある場合はお買い求めの販売店又はマックスサービス㈱に点検・修理に出してください。

❽-1

❽-2

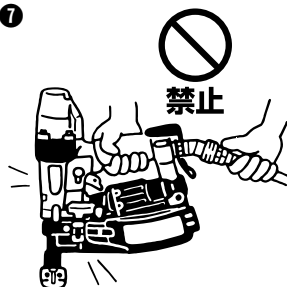
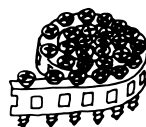
❾指定プラシートねじを必ず使用する。

指定されたプラシートねじと異なるものを使用すると本機の故障や事故の原因となりますので、必ず指定のプラシートねじをご使用ください。

（13ページ参照）

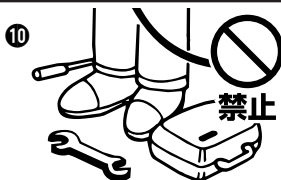
❾

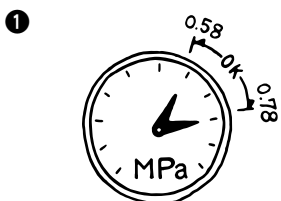
安全作業のために

⚠ 警告

❿作業場所を常に整理する。

作業場所が乱雑だとつまづくなどして思わぬ事故の原因となります。作業場所は常に整理整頓をして安定した姿勢で作業を行ってください。

❿
作業中

⚠ 警告

❶使用空気圧を必ず守る。

本機の使用空気圧範囲は0.58〜0.78MPa（6〜8kgf/cm²）です。対象物によりその範囲内で調整し使用してください。0.78MPa（8kgf/cm²）を超えた圧力で使用すると本機の寿命を早めたり損傷によって危険を生じる恐れがあります。

❷使用する時以外は絶対にトリガに指をかけない。

トリガに指をかけたまま本機を取り回し、誤って発射した場合は思いがけない事故につながります。ねじをとめる時以外は絶対にトリガに指をかけないでください。

❸射出口を絶対に人体に向けない。

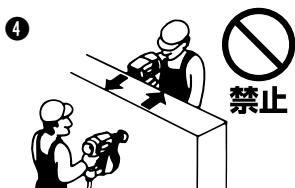
射出口を人に向け、誤って発射した場合には思いがけない事故につながります。また、射出口付近に手足等を近づけての作業は危険ですからさけてください。同時にとめ損じたねじが人に当たらないよう作業中はまわりの人に注意をはらってください。

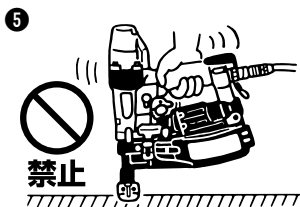
❶ ❷ ❸
❹向い合わせのねじどめは絶対にしない。

向い合ってねじどめ作業をすると、とめ損じたねじが前の作業者にあたり、思わぬ怪我をすることがありますので、向い合わせのねじどめは絶対にしないでください。

❹

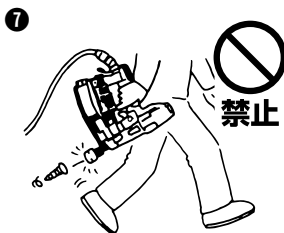
安全作業のために

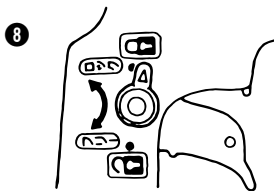
⚠ 警告

❺射出口を確実に対象物に当てる。

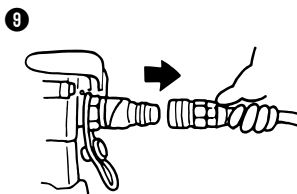
射出口を確実に対象物に当てないと、一度とめたねじや木の節などに当たった場合ねじがはねたり、それたりして大変危険です。また、本機が強く反発することもあり危険ですから、射出口を確実に対象物に当ててください。

❺
❻揮発性可燃物のそばで絶対に使用しない。

本機やエアコンプレッサを揮発性可燃物（例：シンナー、ガソリン等）のそばで使うとねじ締め時の火花による引火や、空気といっしょに吸入圧縮され、爆発の危険を伴いますので、揮発性可燃物のそばでは絶対に使用しないでください。

❻
❼移動する際は、必ずトリガをロックし、エアホースをはずす。

エアホースを接続した状態でトリガを引いたまま本機を持ち歩いたり、手渡し等をし、誤って発射した場合には思いがけない事故につながります。移動する際はトリガをロックし、エアホースをはずしてください。

❼
❽フック使用の時は、必ずトリガをロックし、エアホースをはずす。

フック使用の時は、必ずトリガをロックし、エアホースをはずしてください。

❽
❾作業中断時は必ずトリガをロックし、エアホースをはずす。

作業中のプラシートねじ装填、調整及びねじづまりを直すときは誤ってねじを発射すると危険ですから、必ずトリガをロックし、エアホースをはずしてください。

❾

安全作業のために

⚠警 告

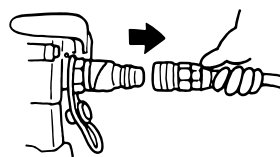
⑩異常を感じたら絶対に使用しない。

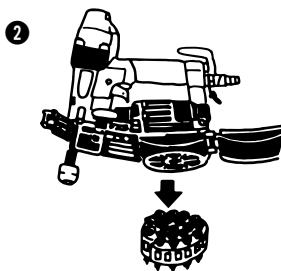
作業中に本機の調子が悪かったり､異常を感じたら、ただちに使用を中止してください。異常のある場合はお買い求めの販売店又はマックスサービス㈱に点検・修理に出してください。

❾
作業後

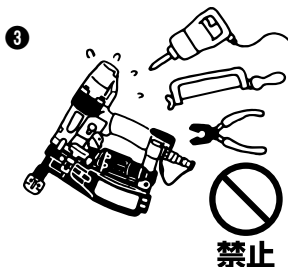
⚠警 告

❶作業終了時には必ずトリガをロックし、エアホースをはずす。

作業終了時には、必ずトリガをロックし、エアホースをはずしてください。

❶
❷作業終了時には必ずプラシートねじを抜き取る。

プラシートねじをマガジン内に残しておくと、次に使用するときうっかり手を触れたり、誤って作動させた場合、思わぬ事故につながることがあります。作業終了時には必ずマガジン内のプラシートねじを抜きとってください。

❷
❸本機を絶対に改造しない。

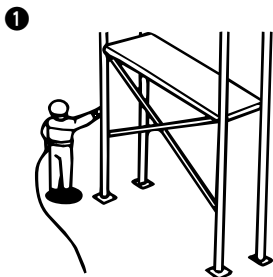
本機を改造すると、本来の性能が発揮できないばかりでなく安全性が損なわれますので、絶対に行わないでください。

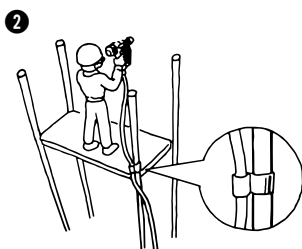
❸

安全作業のために

屋外作業について

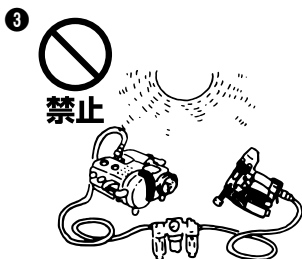
⚠ 警告

❶足場の安全性を充分に確認する。

足場を使っての高所作業の場合、ねじどめ作業中に落ちることのないように充分足場の安全性を確認してください。

❷エアホースの確保。

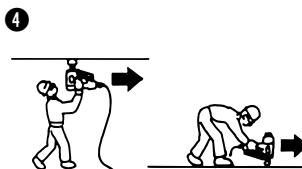
高所作業の場合、エアホースは作業場所の近くに必ず固定箇所を作ってください。これは不用意にホースが引っぱられたり、引っかかったりしたときの危険を防ぐためです。また、ホースのたるみやねじれのないように注意してください。

❸直射日光をさける。

本機やエアセット、エアコンプレッサは直射日光に長時間あてたまま放置しないでください。また、エアコンプレッサはできるだけ日陰に設置して使用してください。

打ち方

❹水平面のねじどめ

前進姿勢でねじどめ作業を行ってください。安全で疲労が少なく、正確で速い作業ができます。後退しながらの作業は足をとられるなど危険です。

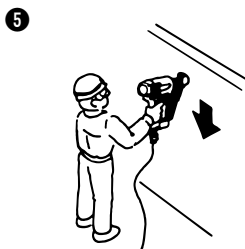
安全作業のために

⚠ 警告

❺垂直面のねじどめ

本機を無理なく操作できる範囲の最も高いところまで差し上げ、上から順に下へねじどめ作業を行ってください。疲労の少ない作業ができます。

※向かい合わせの同時ねじどめは絶対にしないでください。

❺

❻

❻傾斜面のねじどめ

下から上に向かって前進姿勢でねじどめ作業を行ってください。上から下に後退すると足を踏みはずす危険があります。

安全装置について

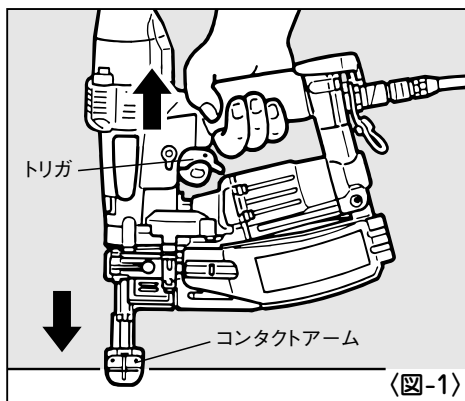
ねじどめ作業の安全を確保するため、本機には次のような安全装置がついています。

●メカニカル安全装置

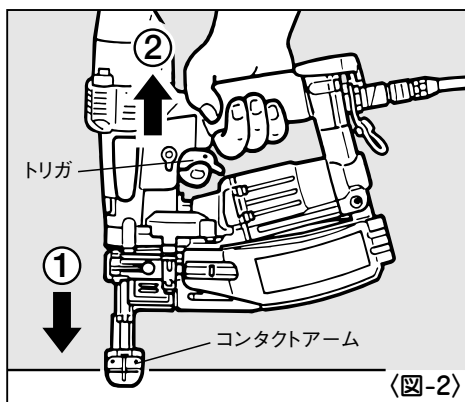
TD-341G

これはコンタクトアームとトリガが同時に作動しないと発射しないメカニズムです。つまりトリガを引いただけではねじは発射せず、また、コンタクトアームを打込対象物に当てただけでもねじは発射しません。コンタクトアームを対象物に当てる動作とトリガを引くという動作が重なってはじめてねじは発射されます。

〈図-1〉

〈図-1〉

TD-341G-ST （シーケンシャルトリガ）

これはコンタクトアーム、そしてトリガの順に作動させないとねじを発射しないメカニズムです。つまりトリガを引いただけの時や、コンタクトアームを打込対象物に当てただけの時、また、トリガ、コンタクトアームの順に作動させた時はねじは発射しません。コンタクトアームを対象物に当ててからトリガを引いた時のみねじは発射されます。 〈図-2〉

〈図-2〉

⚠ 警告

●**安全装置が完全に作動するか使用前に必ず点検する。正常に作動しない場合は使用しない。**

使用前には必ず安全装置が完全に作動するか、確認してください。プラシートねじを装填しないでエアホースを接続し、トリガロックダイヤルをフリーにセットして確認してください。

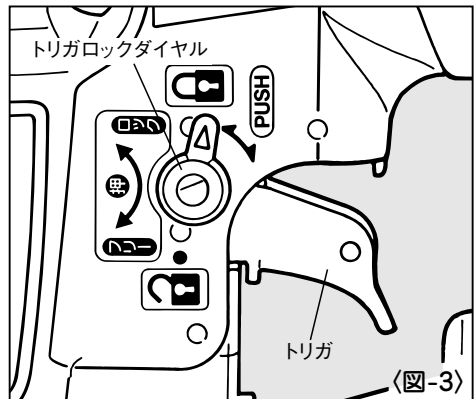
※**下記の場合には安全装置が故障していますから本機を絶対に使用しないでください。**

1. トリガを引いただけで、作動音がする。
2. コンタクトアームを打込対象物に当てただけで、作動音がする。
3. トリガを引いてからコンタクトアームを打込対象物に当てる順序で作動音がする。(TD-341G-STのみ)

異常のある場合はお買い求めの販売店又はマックスサービス㈱に点検・修理に出してください。

●**トリガロック装置**

本機にはより安全に作業していただくためにトリガロック装置を標準装備しています。トリガロック装置とは、作業しないときに本機の使用者の意志によってトリガをロック(引けないように固定)することにより作動できないようにすることができる装置です。 **〈図-3〉**

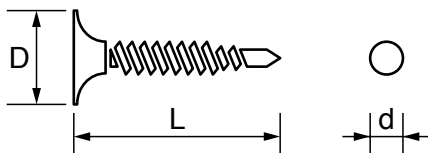
〈図-3〉

ねじどめ作業を行っているとき以外はトリガロックダイヤルを押し回し、ロックの位置にセットしエアホースをはずしてください。作業を始める場合はトリガロックダイヤルを押し回しフリーの位置にセットしてください。

仕様、付属品及び別売品

商品名	マックスねじ打機 ターボドライバ	
商品記号	TD-341G	TD-341G-ST
バルブ機構	ヘッドバルブ方式	
ねじ送り機構	フィードピストンバネ送り方式	
マガジン形式	マガジンキャップ開閉方式	
寸法	(H)341×(W)116×(L)270 mm	(H)336×(W)116×(L)270 mm
質量	1.9kg	
ねじ装填数	100本	
使用エアコンプレッサ	1PS・0.75kW以上	
使用空気圧範囲	0.58～0.78MPa（6～8kgf/cm²）	
使用エアホース	内径8.5mm、長さ30m以内	
使用オイル	タービン油1種ISO VG32（JIS1号90番）	
安全装置	メカニカル方式、トリガロック装置	
付属品	保護メガネ、ジェットオイラ(油入)、六角棒スパナ4、ビット B341H2、コンタクトトップL（透明）	
別売品	ターボドライバ TD-341用ビット B341H2	

⚠注意

- 石膏ボード2枚を薄鋼板下地材にとめつける場合には、使用空気圧を0.68MPa（7kgf/cm²）以上に設定してください。
- 各種形状や厚さの薄鋼板下地材と石膏ボードの組合せによっては、とめつけられない場合があります。
- 使用エアホースの内径は8.5mm、長さ30m以内のものをご使用ください。使用エアホースの内径が細かったり、長さが長かったりすると圧力が降下し、十分なエアが供給されず性能がでません。

〈ねじ仕様〉

適合下地材	商品記号	L（mm）	D（mm）	d（mm）	表面処理	備考
木下地専用ねじ	PS4025W	25	8.0	4.0	ゴウキン ラスパート	
	PS4028W	28	8.0	4.0		2×4認定
	PS4032W	32	8.0	4.0		2×4認定
	PS4041W	41	8.0	4.0		
薄鋼板下地用ねじ（薄鋼板の対象厚み〜t0.8mm）	PS3522M	24〈22〉	8.0	3.5	亜鉛メッキ ユニクロ処理	
	PS3525M	26.5〈25〉	8.0	3.5		
	PS3528M	28	8.0	3.5		
	PS3528MW	28	8.0	3.5	ゴウキン	2×4認定
	PS3540MW	40	8.0	3.5		

※ねじの種類は変わる場合があります。　〈　〉…有効ねじ長さ

〈ねじ・部材適合表〉

⚠注 意

●使用ねじは、下記部材適合表に合ったねじを必ず使用してください。
不適切なねじを使用すると十分な性能がでません。

商品記号	適合下地	適合石膏ボード厚さ（mm）					
		t 9.5	t 12.5	t 15	t 9.5 ＋ t 9.5	t 9.5 ＋ t 12.5	t 12.5 ＋ t 12.5
PS4025W	木下地専用ねじ	○	×	×	×	×	×
PS4028W		○	○	×	×	×	×
PS4032W		×	○	○	○	×	×
PS4041W		×	×	×	○	○	○
PS3522M	薄鋼板下地用ねじ（薄鋼板の対象厚み〜t0.8mm）	○	×	×	×	×	×
PS3525M		○	○	×	×	×	×
PS3528M		○	○	○	×	×	×
PS3528MW		○	○	×	×	×	×
PS3540MW		×	×	×	○	○	○

※部材の堅さや石膏ボード（耐水ボードや強化ボードなど）の種類によってはとめつけられない場合があります。

5 使用方法

⚠注意

●使用前・使用後にエアプラグの口より10滴以上注油してください。オイルはタービン油1種ISO VG32（JIS1号90番）を必ずお使いください。指定以外のオイルを使用しますと、能力低下や故障の原因となります。

●低温時に使用すると十分な性能が発揮できなくなるおそれがあります。

使用前に本機とエアコンプレッサを接続しないで使い方を覚えてください。

【ねじの装填方法】

⚠警告

●プラシートねじを装填する時は、必ずトリガをロックし、エアホースをはずす。

手順

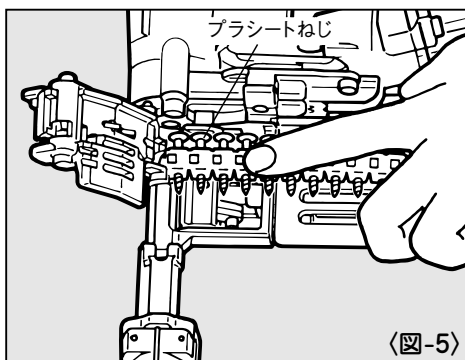
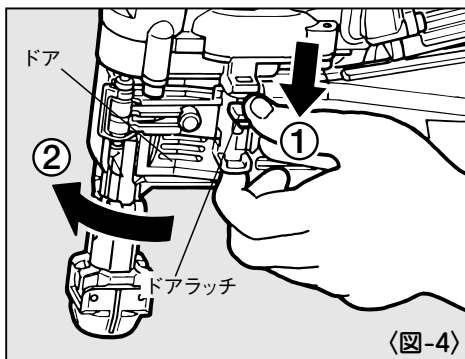
❶トリガをロックし、エアホースをはずします。

❷ドアとドアラッチに指をかけてドアラッチを下へ押し下げながら開きます。〈図-4〉

❸マガジンキャップを右へ軽く回して開きます。

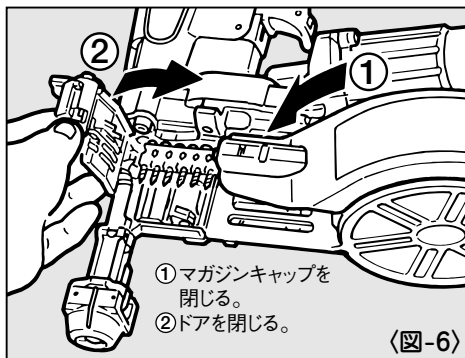
〈図-4〉

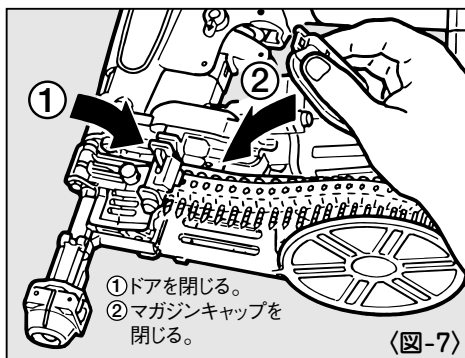
❹シートの端をとめているテープをとり、プラシートねじをマガジンに入れ、ねじを引き出し、送り爪の溝にセットします。〈図-5〉

〈図-5〉

❺マガジンキャップを閉じます。

❻ドアを右へ回して完全に閉じます。

〈図-6〉

〈図-6〉

※❺と❻の操作は反対の手順で行うことも出来ます。 〈図-7〉

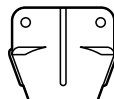
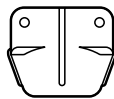
〈図-7〉

【コンタクトトップについて】

⚠ 警 告

●コンタクトトップを交換する時は、必ずトリガをロックし、エアホースをはずす。

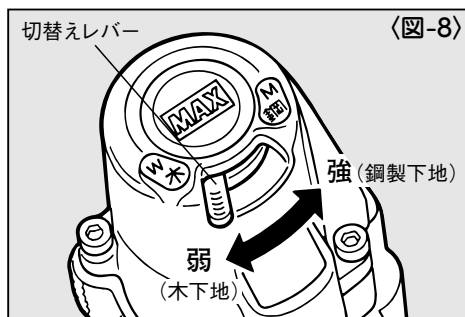
⚠ 注 意

《薄鋼板下地への施工をするお客様へ》

●薄鋼板下地材へt9.5mm石膏ボードを取り付ける場合、仕上りをより安定させる為に付属コンタクトトップL（透明）を使用してください。

【切替えレバーについて】

本機には打込材の条件によって、最適（打ち易さ、スピード）なねじどめ作業ができる切替えレバー機構がついています。

〈図-8〉

※打込材の条件に合った適切な切替え位置でご使用ください。

〈切替えレバーの位置〉

切替え レバー位置	打込材条件	
	下地材	上　材
弱（木）	木下地	石膏ボード（t 9.5～15mm）1枚及び2枚張り
強（鋼）	鋼製下地 （～t 0.8mmまで）	石膏ボード（t 9.5～15mm）1枚及び2枚張り

下地材	ボード 枚数	切替えレバー位置	
		弱（木）	強（鋼）
木下地	1枚	◎	○
	2枚	◎	○
鋼製下地	1枚	○	◎
	2枚	×	◎

※ ◎：最適　○：打込み可能
　×：打込み不可

※鋼製下地材＋石膏ボード2枚の条件においては、切替えレバー「弱（木）」の位置では打ち込めません。

※切替えレバーは「弱（木）」の位置側または「強（鋼）」の位置側に、「カチッ」とクリック感がある位置まできちんと合わせてご使用ください。中途半端な位置で使用すると故障の原因になります。

【打ち方】 TD-341Gの場合

本機はねじどめ作業の内容によって効果的な使い方ができるよう「単発打ち」と「連続打ち」が打ち方で使い分けできる機構を有しています。

単発打ちの操作方法

単発打ちとは、コンタクトアーム先端を打込対象物に押し当ててからトリガを引く操作でねじを1本しか打たない打ち方です。主に狙い打ちなど、ねじの打込位置を合わせたり、仕上りを重視するねじどめ作業に適しています。

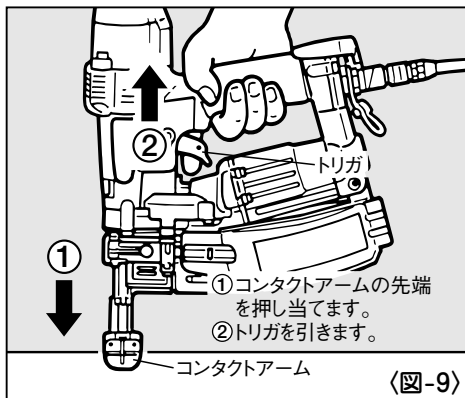
手順

❶トリガロックダイヤルを押し回し、フリーの位置にセットします。

❷ねじどめしようとする箇所にコンタクトアーム先端をしっかり押し当てたままトリガを引きます。 **〈図-9〉**

❸ねじが完全に締め込まれてモータの回転が止まったらトリガをはなしてください。

〈図-9〉

メモ

①モータの回転が止まるまで、トリガをはなさず、しっかり押し付けてください。

②トリガを早くはなすとねじが浮いてしまったり、ねじ送り不良が発生する場合があります。

※単発打ちでトリガを引いたまま、再度コンタクトアームを打込対象物に当ててもねじは発射されません。続けて連続打ちする場合は、トリガから指をいったんはなしてから、連続打ちの操作を行ってください。

連続打ちの操作方法

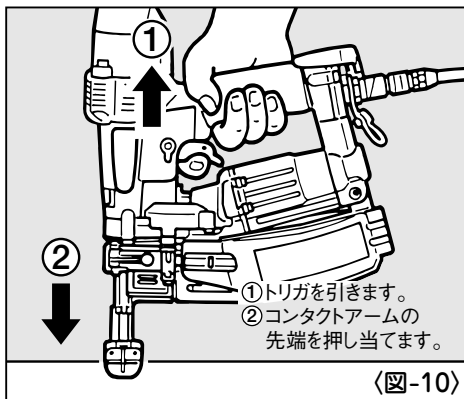
連続打ちとは、トリガを引いたまま打込対象物にコンタクトアーム先端を打ち当てる操作をくり返すことで連続的にねじどめ作業ができる打ち方です。

手順

❶トリガロックダイヤルを押し回し、フリーの位置にセットします。

❷トリガを引いたままねじどめしようとする箇所にコンタクトアーム先端を打ち当てます。この操作をくり返すことで連続打ち作業ができます。〈図-10〉

〈図-10〉

●モータの回転が止まるまで、しっかり押し付けてください。

【打ち方】 TD-341G-STの場合

本機はシーケンシャルトリガを採用しています。シーケンシャルトリガは、コンタクトアームを対象物に押し当てた後、トリガを引く単発打ち専用の構造になっておりますので狙った場所に一発一発より一層確実にねじどめすることができます。

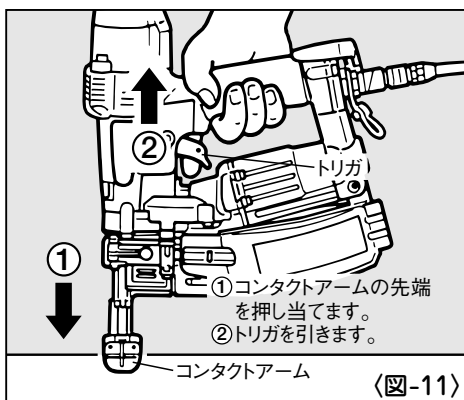
手順

❶トリガロックダイヤルを押し回し、フリーの位置にセットします。

❷ねじどめしようとする箇所にコンタクトアーム先端をしっかり押し当てたままトリガを引きます。〈図-11〉

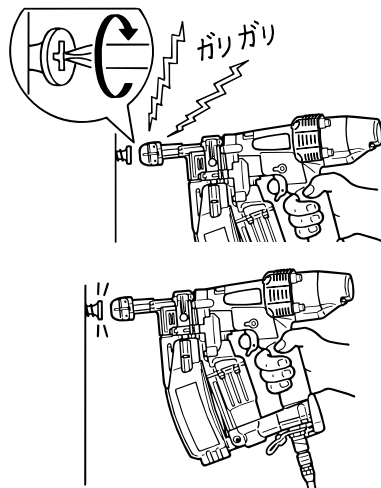
❸ねじが完全に締め込まれてモータの回転が止まったらトリガをはなしてください。

〈図-11〉

メモ

●ねじが完全に締め込まれて、モータの回転が止まるまで、トリガを引いたまましっかり本機を押し付けて使用してください。

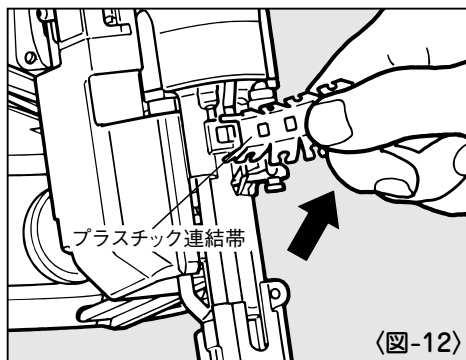
※ねじどめには、押し付け力が必要です。

ねじどめには十分な押し付け力が必要です。押し付け力が不足しますと、ねじが浮いたり、ねじの十字穴からビットがはずれて空回りが発生します。

※トリガを早くはなすとねじが浮いてしまったり、ねじ送り不良が発生する場合があります。

●ねじどめ後、コンタクトアーム先端を打込対象物に押し当てたまま、本機をずらして再度トリガを引くとねじが浮いた状態で止まってしまいます。必ず1本ずつコンタクトアーム先端を打込対象物から離して打ってください。

【プラスチック連結帯の切り方】

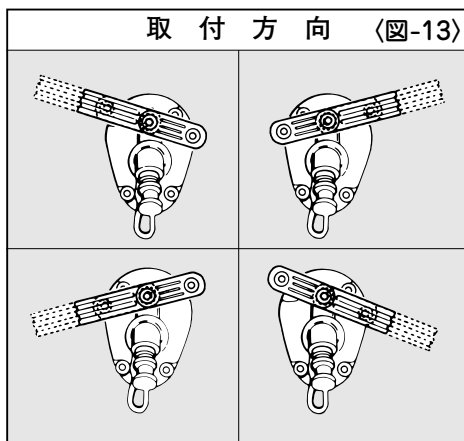
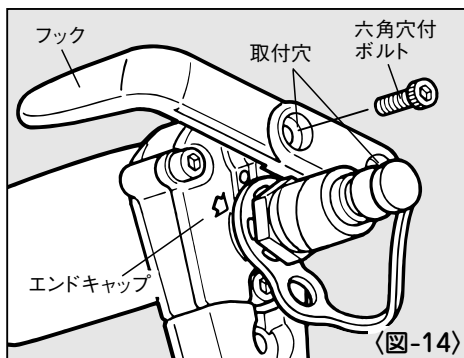
ねじどめ作業を行っていますと、ノーズよりプラシートねじのプラスチック連結帯がでてきますので→の方向に引きちぎってください。〈図-12〉

〈図-12〉

【フックの方向の変え方】

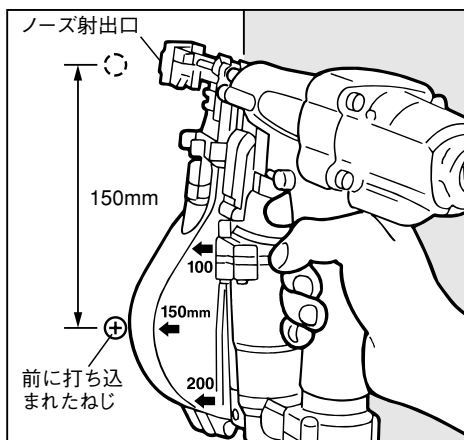
⚠警告

●フック使用の時は、必ずトリガをロックし、エアホースをはずす。

フックは4方向に向きを変えることができます。また、フックの幅は2段階に調整できます。合計8パターンに調整できます。

〈図-13〉

方向・幅を変えるときは、取付けの六角穴付ボルトを六角棒スパナ4ではずし、フックの位置を調整してから再度組み付けてください。〈図-14〉

【打込みピッチ表示（目安）の使い方】

本機マガジンキャップ上部にはねじ打込み間隔の目安となる打込みピッチ（ノーズ射出口からの距離）を表示しています。前に打ち込まれたねじ頭に基準の長さを目視で合わせねじを打ち込んでください。

※ピッチ表示は目安ですのでご注意ください。

用途

本機の用途には次のものがあります。ねじどめ対象物に合わせて適したプラシートねじを選定してご使用ください。（使用プラシートねじは13ページ参照）

●主な用途

- ●石膏ボードを木下地に取り付ける内装施工
- ●石膏ボードを建築用薄鋼板下地材に（～ｔ0.8mm）取り付ける内装施工

⚠警 告

●施工については施工基準書にもとづいた施工を行う。

●必ず射出口先端を部材に直角に押し当てる。

●部材の堅さや石膏ボード（耐水ボードや強化ボードなど）の種類によってはとめつけられない場合があります。

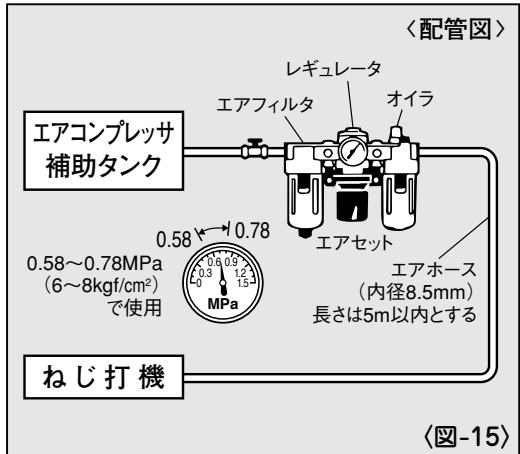
配管についての注意

⚠ 警告

●エアコンプレッサ以外の動力源は絶対に使用しない。

❶動力源は必ずエアコンプレッサをお使いください。高圧ガス（例：酸素、アセチレン等）は絶対に使わないでください。

❷エアセットは本機1台に1セット取付けるようにしてください。

❸エアホースは内径8.5㎜、長さ30ｍ以内で使用してください。エアセット使用時は、 エアセットから本機までのエアホースを内径8.5㎜、長さ5ｍ以内で使用してください。〈図-15〉

〈図-15〉

⚠ 注意

〈エアコンプレッサ〉

●スーパーネイラ用と一般釘打機用の2種類の取出口のあるエアコンプレッサをご使用になる場合は、必ず一般釘打機用取出口に接続してください。

●エアコンプレッサは1PS・0.75kW以上のものを使用してください。

●エアコンプレッサ1台に本機1台で使用してください。

1台のエアコンプレッサから、同時に2台のターボドライバを使うと、エアが足りなくなります。

〈エアホース〉

●内径8.5㎜、長さ30ｍ以内のエアホースを使用してください。

細いエアホースや長いエアホースを使用すると、圧力降下によりビットがねじから外れて空回りしたり、ねじ浮き、ねじ送り不良、ビットが戻らない等の原因となります。

〈使用空気圧〉

●使用空気圧は0.58～0.78MPa（6～8kgf/cm²）で使用してください。0.68～0.73MPa（7～7.5kgf/cm²）設定をおすすめします。

エアホースの接続

⚠警告

●エアホース接続の時は以下の事を<u>厳守する。</u>

エアホースを接続する時は誤って作動させないように下記のことを必ず守ってください。

1.トリガをロックする。

2.コンタクトアームに触れない。

3.コンタクトアームを押し上げた状態にしない。

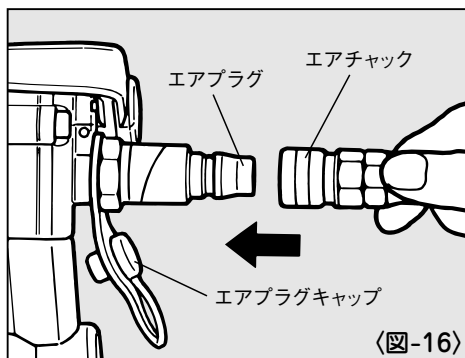
4.射出口を人体に向けない。

手順

❶トリガをロックします。

❷エアプラグからエアプラグキャップをはずします。

❸エアプラグにエアホースのエアチャックを接続します。〈図-16〉

〈図-16〉

⚠警告

●作業中断時は必ずトリガを<u>ロックし、</u>エアホースを<u>はずす。</u>

アジャスタの調整と締込状態の確認

本機には締込み深さを調整できるアジャスタが装備されています。締込みすぎは極端に保持力が低下しますので作業の際には締込状態を確認して、アジャスタで深さを調整してください。 **〈図-17〉**

⚠ 警 告

●調整の時は必ずトリガをロックし、エアホースをはずす。

〈図-17〉

手順

❶トリガをロックし、エアホースをはずします。

❷プラシートねじを装填します。

❸エアコンプレッサの圧力を0.69～0.73 MPa（7～7.5kgf/cm²）にセットします。

❹本機にエアホースを接続し、トリガロックダイヤルをフリーにセットします。

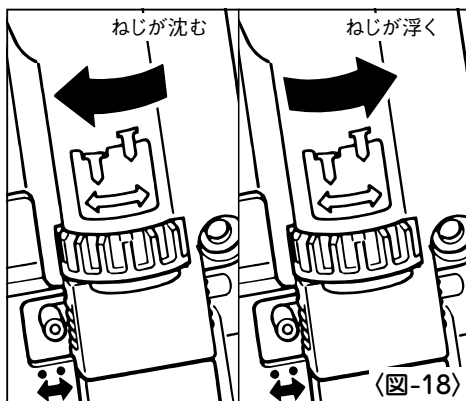
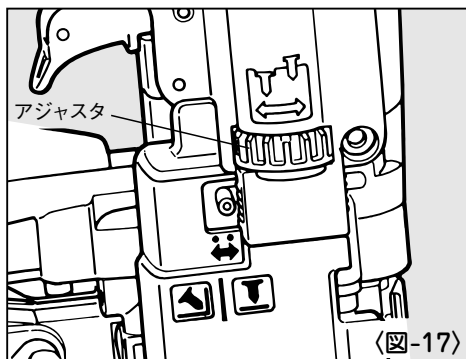
❺アジャスタの調整（ねじの打込調整）の前に一度テスト打ちしてください。締込みたい深さを確認します。

❻トリガをロックし、エアホースをはずします。

❼プラシートねじを取り出します。

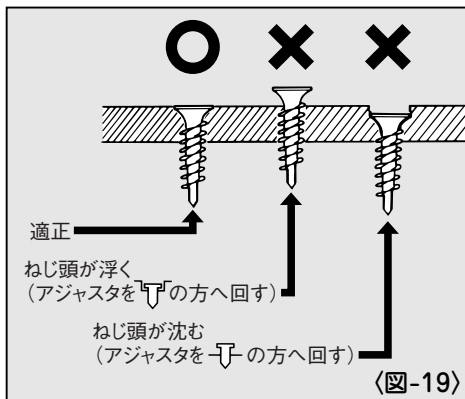
❽アジャスタを回し調整します。**〈図-18〉**
　※アジャスタを1回転させると約1mm上下します。

❾本機にプラシートねじを装填します。

〈図-18〉

⑩エアホースを接続し、トリガロックダイヤルをフリーにセットしてさらにテスト打ちをして適正かどうか確認してください。 〈図-19〉

⑪適正であれば調整完了です。不適正であれば以上の手順をくり返してください。

⑫適正状態が得られない場合はエアコンプレッサの空気圧を調整してください。

〈図-19〉

⚠ 警告

●**0.78MPa（8kgf/cm²）を超えた圧力では絶対に使用しない。**

【ワンタッチアジャスタの使い方】

本機には、隅打ちなど、やむを得ずねじを斜めに打つ場合に、ワンタッチ操作でねじを沈めることができる機能が装備されています。

	ワンタッチアジャスタ	ねじ状態	用　途
平打ち	出ている状態	ねじを斜めに打つとねじ頭がボードより浮きます。	平打ちに使用してください。
斜め打ち	出ている状態	ねじを斜めに打ってもねじ頭がボードより沈みます。	隅打ちに使用してください。

10 ねじづまりの直し方

⚠警 告

●ねじづまりを直す時は、必ずトリガをロックし、エアホースをはずす。

手順

❶トリガをロックし、エアホースをはずします。

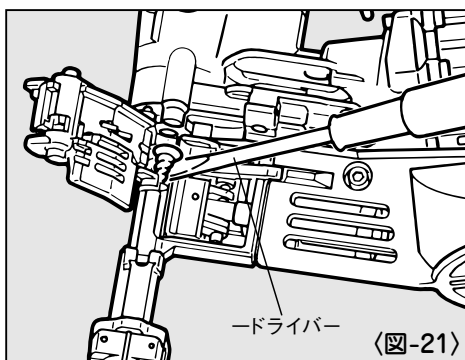
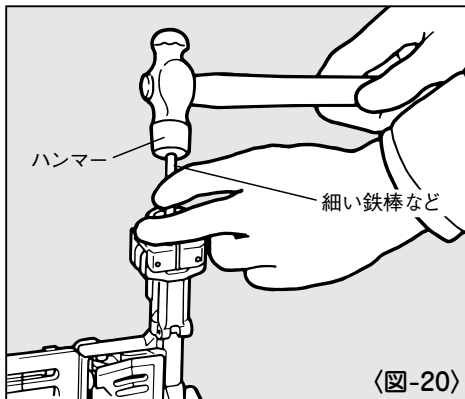
❷プラシートねじをマガジン内より抜き取ります。

❸ドアを開き、射出口より細い鉄棒を入れ、ハンマーでたたきます。〈図-20〉

❹ノーズ内部につまったねじを細い鉄棒や－ドライバーで取り除きます。〈図-21〉

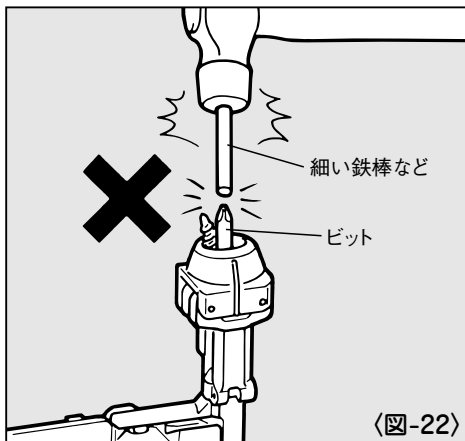
❺ねじを送り爪に再度確実にセットして、ドアを閉じます。

〈図-20〉

〈図-21〉

⚠注 意

●細い鉄棒で詰まったねじをたたくときに、ビットをたたかないでください。ビットをたたくと先端が破損し、ねじどめ不良の原因になります。

〈図-22〉

〈図-22〉

ビットの交換のしかた

【ビット交換のめやす】

●ビットがねじから外れて空回りする。　●モータが止まりにくくなってきた。
●ねじの締め込み深さがばらつく様になった。
●より大きな押し付け力が必要になった。
以上の状態が多く出る場合、ビットを交換してください。

⚠ 警 告

●ビット交換の時は以下の事を厳守する。
1.トリガをロックする。
2.エアホースをはずす。
3.プラシートねじを取り出す。
●必ず本取扱説明書の手順に従う。

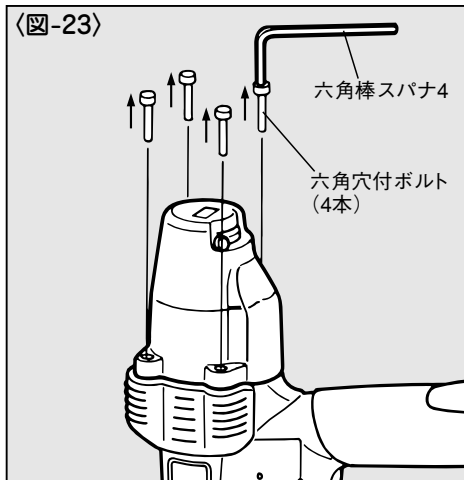
⚠ 注 意

●ビット交換の時、本機内部に砂、ゴミ、チリ、ホコリなどが入らないようにする。砂、ゴミ、チリ、ホコリなどが入ると故障の原因になります。
●ビットは消耗品です。摩耗したビットを使うと、作業の能率を損ない、ねじ締め不良の原因となります。作業する前にビットを点検し、摩耗している場合は、早めに交換してください。
●ビットの交換は、マックスサービス㈱でも承ります。

【ビットのはずしかた】

手順

❶トリガをロックします。
❷エアホースをはずします。
❸プラシートねじを取り出します。
❹六角穴付ボルト4本を、付属の六角棒スパナ4ではずします。　〈図-23〉

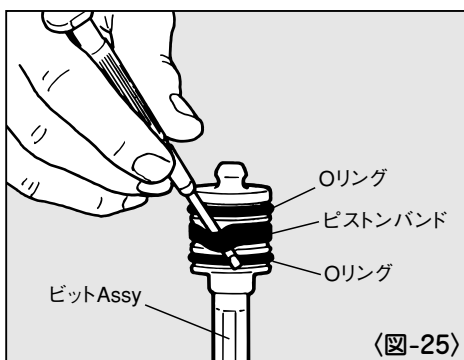
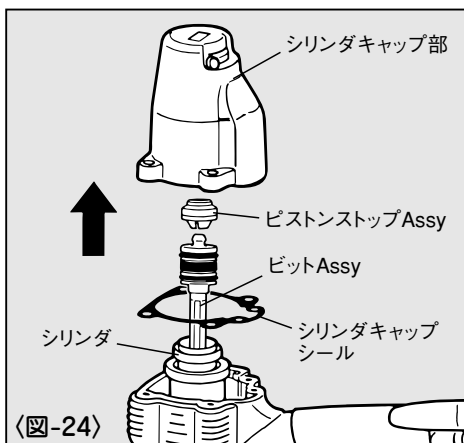
〈図-23〉

❺次にシリンダキャップ部をはずします。この時、一緒にビットAssy、シリンダキャップシールもはずれます。シリンダキャップ部についているビットAssyは引き抜きます。〈図-24〉

※シリンダキャップ部からビットAssyを引き抜いた時、ピストンストップAssyもはずれた場合は、ピストンストップAssyをシリンダキャップ部にはめ込んでください。

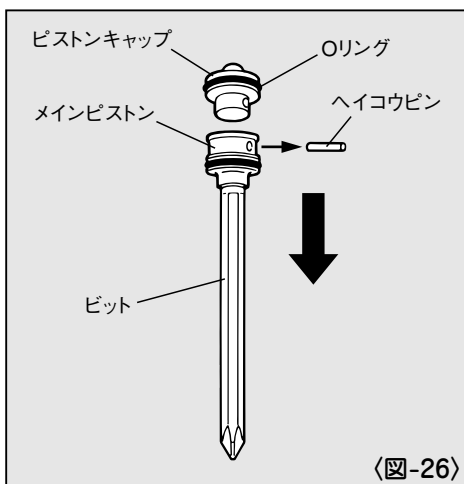
※ビットAssyがシリンダ内に残っている場合は、本機を逆さまにし、抜き取ってください。

〈図-24〉

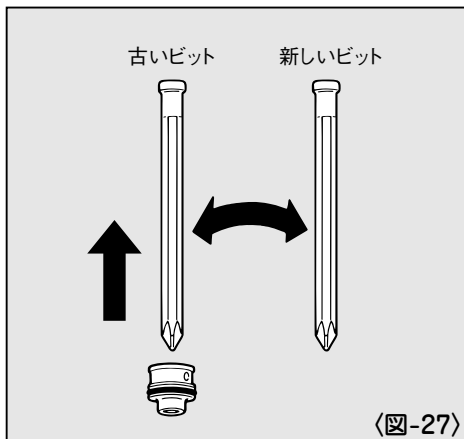
❻ビットAssyのピストンバンドを、精密ドライバー（先端が一型のもの）や細い釘などではずします。〈図-25〉

〈図-25〉

⚠ 注 意
●ピストンバンドをはずす時、誤って切ったり、傷付けたりしないように注意深く行ってください。 **●Oリング（上側、下側）は、圧縮空気のシール機能を担う重要な部品です。なるべく触れないようにしてください。**

❼ヘイコウピンを抜きます。ピストンキャップからメインピストン、ビットがはずれます。〈図-26〉

〈図-26〉

❽メインピストンから古いビットを抜き取り、新しいビットと交換します。

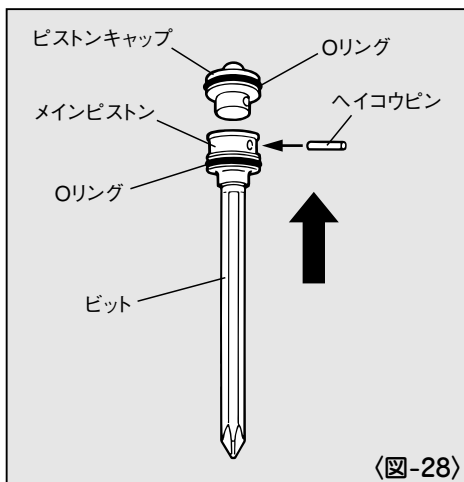
〈図-27〉

〈図-27〉

【組み付け方】

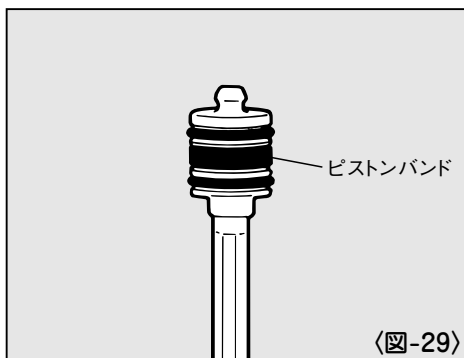
⚠注 意
●組み付けの時に、指定外のオイル・グリスを使用しない。

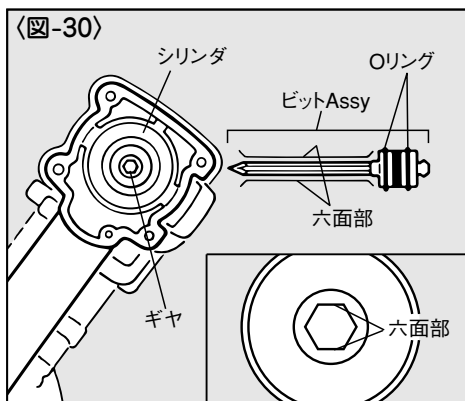
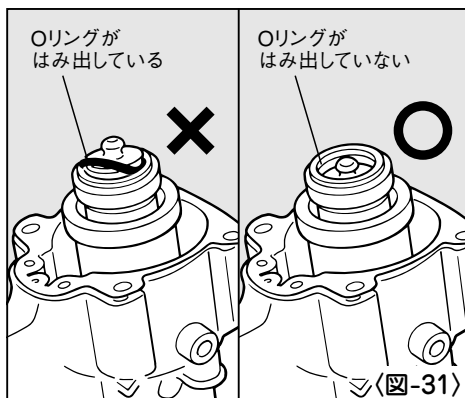
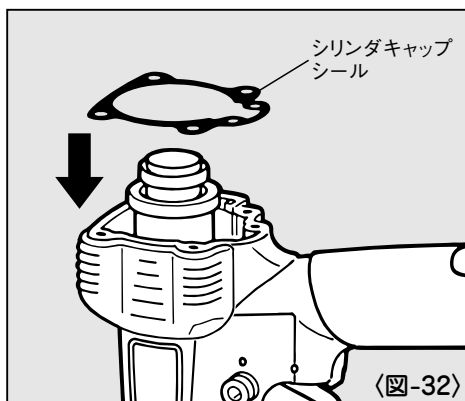
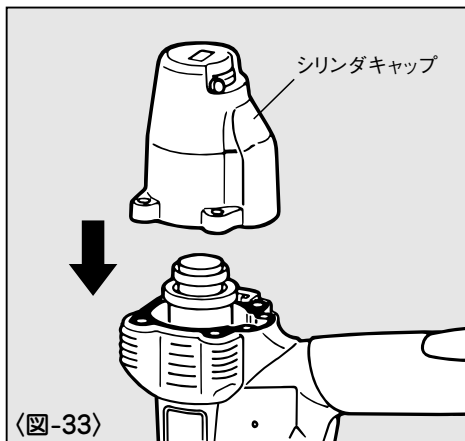
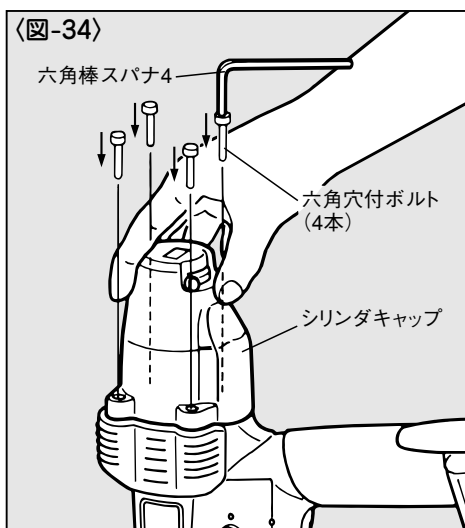
手順

❾ ❼の逆の手順で、❽で組んだ新しいビット、メインピストンとピストンキャップをヘイコウピンで止めます。〈図-28〉

〈図-28〉

❿次にビットAssyの真ん中の溝にピストンバンドをはめます。〈図-29〉

⚠注 意
●ヘイコウピンが確実に入っていることを確認してください。

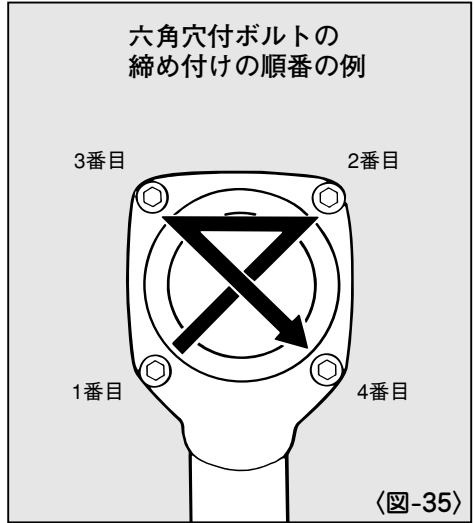
〈図-29〉

⓫ギヤの六面部の向きとビットの六面部の向きを合わせて、ビットAssyをシリンダ内に落とし込みます。〈図-30〉

※その後、シリンダ内に10滴以上必ず注油してください。

⚠ 注 意
●ビットAssyのOリングがはみ出していないことを確認してください。 〈図-31〉

⓬シリンダキャップシールを、ボデー上部に合わせて置きます。〈図-32〉

⓭シリンダキャップ部をシリンダキャップシールの上に置きます。〈図-33〉

⓮シリンダキャップを押さえながら、六角穴付ボルト4本を付属の六角棒スパナ4で締め付けます。〈図-34〉

締め付けは、それぞれのボルトを対角線の順に均等に締めてください。〈図-35〉

※指定締め付けトルクは、6.9～7.8N・m（70～80kgf/cm）です。（六角穴付ボルトの座面がシリンダキャップの面に接してから、付属の六角棒スパナで適切な増し締めをする要領です。）

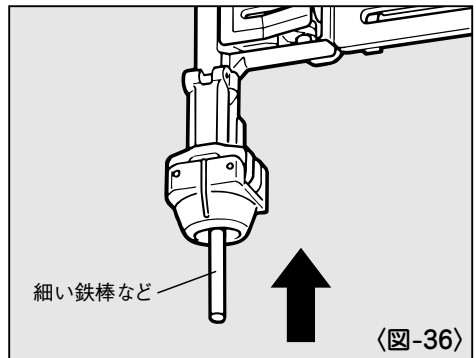
〈図-35〉

⚠ 警 告

●シリンダキャップが、ボデーに4本の六角穴付ボルトで均等に、指定締め付けトルクで確実に締め付けられていることを確認する。

⚠ 注 意

●六角穴付ボルトを締め付けるとき、柄の長い六角棒スパナなどで指定トルクを超える大きな力をかけてしまうとシリンダキャップ、ボデーが破損する恐れがあります。
必ず付属の4mm六角棒スパナで適切に締めてください。

⑮射出口から細い鉄棒を入れ、ビットを当りがあるところまで押し上げます。〈図-36〉

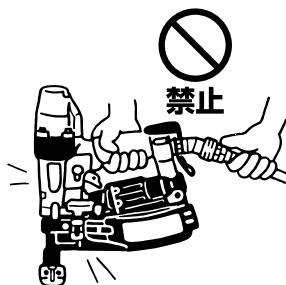
〈図-36〉

※ビットの交換作業が終わりましたら、ねじどめ作業を行う前に次ページの確認事項に従って、本機に異常がないか十分に確認してください。

⚠ 警告

●エアホース接続時には必ず確認する。

使用前にはプラシートねじを装填しないでエアホースを本機に接続し下記の確認を必ず行ってください。

1. エアホースを接続しただけで作動音がしないか。
2. エアもれや異常音がしないか。

エアホースを接続しただけで作動したり、エアもれや異常音がする場合は故障しています。そのまま使うと事故の原因となりますので、絶対に使用しないでください。異常のある場合はお買い求めの販売店又はマックスサービス㈱に点検・修理に出してください。

●安全装置が完全に作動するか使用前に必ず点検する。正常に作動しない場合は使用しない。

使用前には必ず安全装置が完全に作動するか、確認してください。プラシートねじを装填しないでエアホースを接続し、トリガロックダイヤルをフリーにセットして確認してください。（11ページ参照）

※下記の場合には安全装置が故障していますから本機を絶対に使用しないでください。

1. トリガを引いただけで、作動音がする。
2. コンタクトアームを対象物に当てただけで、作動音がする。

異常のある場合はお買い求めの販売店又はマックスサービス㈱に点検・修理に出してください。

●異常を感じたら絶対に使用しない。

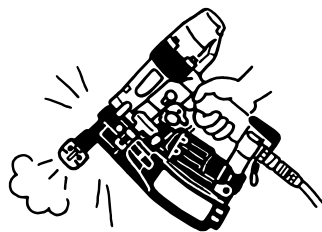
作業中に本機の調子が悪かったり､異常を感じたら、ただちに使用を中止してください。異常のある場合はお買い求めの販売店又はマックスサービス㈱に点検・修理に出してください。

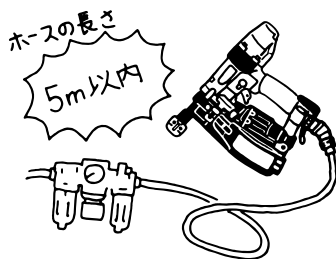
12 性能を維持するために

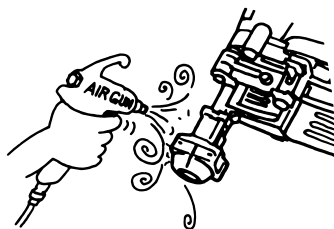
❶本機を大切に使う

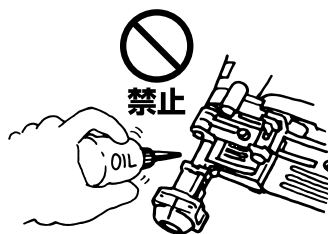
落したり、ぶつけたり、叩いたりしますと、変形、亀裂や破損を生じる場合があります。危険ですから絶対に落したり、ぶつけたり、叩いたりしないでください。

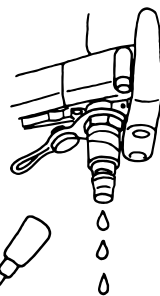
❷カラ打ちをしない

プラシートねじを装填しないでカラ打ちをくり返し行うと各部の耐久性が低下しますのでさけてください。

❸エアセットを使用する

エアセットを使わないとエアコンプレッサ内の水分やゴミが本機内に入り、錆や摩耗が発生して作動不良の原因になります。なお、エアセットから本機までのエアホースは長すぎると圧力低下となりますので5m以内にしてください。

❹作業前後にノーズ周辺のホコリを除去する

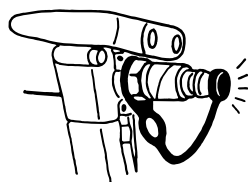
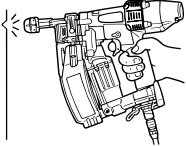
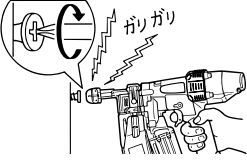
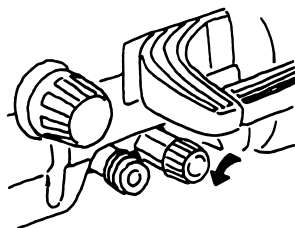
石膏の粉などが本機に付着したまま作業を続けると、各部がスムーズに動かなくなり、正常に作動しない恐れがあります。作業前後にエアダスタなどでノーズ周辺の石膏の粉、ゴミなどを除去してください。エアダスタは、お近くのマックス商品取り扱い店でお買い求めください。

❺ノーズ周辺摺動部には、ベタつくものは絶対に塗布しない

ノーズ周辺摺動部には、グリス、オイル（スプレー式も含む）などベタつくものは絶対に塗布しないでください。石膏の粉が固着し、垂直ガイドがスムーズに動かなくなり、ねじ倒れを起こす恐れがあり、オーバーホール・洗浄が必要になることがあります。

❻本機の水抜きをする

作業終了時エアプラグを下に向け十分水抜きしてください。

❼指定オイルを注油する

オイルはタービン油1種ISO VG32（JIS1号90番）を必ずお使いください。使用前使用後にエアプラグの口より10滴以上注油してください。指定外のオイルを使用しますと、能力低下や故障の原因となります。

❽エアプラグキャップの使用方法

機械内部にゴミなど入ると故障の原因となりますので、本機を使用しないときはエアプラグにキャップを装着してください。

❾エアコンプレッサのタンク、補助タンク、エアセットのエアフィルタの水抜きをする

エアコンプレッサのタンク、補助タンク、エアセットのエアフィルタに水がたまると能力低下や故障の原因となりますので定期的に水抜きをしてください。

❿定期的に点検する

本機の性能を維持するために清掃、点検を定期的に行ってください。点検はお買い求めの販売店又はマックスサービス㈱にお申しつけください。

13 故障かなと思った時の確認事項

症　　状	確　認　事　項
空打ち（ねじが打てない）が発生する。	●ビットの先端が摩耗していないか確認する。摩耗している場合新しいビットに交換してください。（27ページ参照） ●石膏ボードの厚さ、張り付け枚数に応じて、適正な長さのねじを使用してください。（13ページ参照） ●速く打ちすぎると、圧力が下がってしまいます。適正な作業速さで使用してください。 ●ねじが完全に締め込まれてモータの回転が止まるまで、トリガを引いたまましっかり本機を押し付けて使用してください。 ●1馬力以上のエアコンプレッサ、内径8.5mm、長さ30m以内のエアホースを使用してください。使用空気圧は0.58～0.78MPa（6～8kgf/cm^2）で使用してください。 ●使用前使用後にエアプラグの口より10滴以上注油してください。 ●エアコンプレッサ1台にターボドライバ1台で使用してください。
ビットがねじの十字穴からはずれて、空回りする。	
ねじが浮く。	

14 保証、アフターサービス、補修用性能部品について

【保証について】

●本機には保証書（梱包箱に添付）がついています。

●所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保管してください。

●本機の基本保証期間はお買い上げ日より1年間です。
「お客様登録カード」にて登録手続きしていただいたお客様に限り、保証期間が2年間となります。

【アフターサービスについて】

●本機の調子が悪いときは、使用を中止して、お買い求めの販売店又はマックスサービス㈱にご相談ください。

●保証期間中の修理は保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間経過後の修理は、修理によって機能が維持できる場合に、ご要望により有償修理させていただきます。

【補修用性能部品の最低保有期間】

●本機の補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後6年です。

●補修用性能部品とは、本機の性能を維持するために必要な部品です。

この取扱説明書は再生紙を使用しています。

本社・営業本部	〒103-8502	中央区日本橋箱崎町６－６	TEL（03）3669-8121㈹
札幌支店	〒060-0041	札幌市中央区大通東６－12－８	TEL（011）261-7141㈹
仙台支店	〒984-0002	仙台市若林区卸町東２－１－29	TEL（022）236-4121㈹
東京支店	〒103-8502	中央区日本橋箱崎町６－６	TEL（03）3669-8118㈹
名古屋支店	〒461-0025	名古屋市東区徳川１－11－23	TEL（052）935-8531㈹
大阪支店	〒553-0004	大阪市福島区玉川１－３－18	TEL（06）6444-2031㈹
広島支店	〒733-0035	広島市西区南観音７－11－24	TEL（082）291-6331㈹
福岡支店	〒812-0006	福岡市博多区上牟田１－５－１	TEL（092）411-5416㈹
盛岡営業所	〒020-0824	盛岡市東安庭２－10－３	TEL（019）621-3541㈹
宇都宮営業所	〒321-0933	宇都宮市簗瀬町２３１３	TEL（028）636-3012㈹
柏営業所	〒277-0871	柏市若柴297－12	TEL（04）7132-1500㈹
多摩営業所	〒190-0022	立川市錦町５－17－19	TEL（042）528-3051㈹
浜松営業所	〒433-8117	浜松市高丘東２－22－15	TEL（053）439-3300㈹
南九州営業所	〒891-0115	鹿児島市東開町３－24	TEL（099）269-5347㈹
新潟マックス㈱	〒955-0081	三条市東裏館２－14－28	TEL（0256）34-2112㈹
水戸マックス㈱	〒310-0043	水戸市松ヶ丘２－３－27	TEL（029）255-3761㈹
群馬マックス㈱	〒371-0844	前橋市古市町２３３－５	TEL（027）210-7755㈹
埼玉マックス㈱	〒331-0823	さいたま市北区日進町３－421	TEL（048）651-5341㈹
千葉マックス㈱	〒284-0001	四街道市大日１８７０－１	TEL（043）422-7400㈹
横浜マックス㈱	〒241-0822	横浜市旭区さちが丘７－６	TEL（045）364-5661㈹
長野マックス㈱	〒399-0033	松本市笹賀８１５５	TEL（0263）26-4377㈹
長野営業所	〒381-2247	長野市青木島１－35－１	TEL（026）285-6740㈹
静岡マックス㈱	〒422-8036	静岡市敷地１－３－26	TEL（054）237-6116㈹
金沢マックス㈱	〒921-8061	金沢市森戸２－15	TEL（076）240-1871㈹
富山営業所	〒930-0827	富山市上飯野字樋向割10－８	TEL（076）452-0182㈹
福井営業所	〒918-8237	福井市和田東２－１７１１	TEL（0776）27-3378㈹
京滋マックス㈱	〒612-8414	京都市伏見区竹田段ノ川原町９	TEL（075）645-5061㈹
兵庫マックス㈱	〒652-0832	神戸市兵庫区鍛冶屋町２-１-２	TEL（078）652-7370㈹
三木営業所	〒673-0404	三木市大村１０９－１	TEL（0794）83-2121㈹
岡山マックス㈱	〒700-0971	岡山市野田３－23－28	TEL（086）246-9516㈹
四国マックス㈱	〒761-8056	高松市上天神町７６１－３	TEL（087）866-5599㈹
徳島営業所	〒770-0866	徳島市末広１－４－25	TEL（088）623-0286㈹
松山営業所	〒790-0951	松山市天山２－１－35	TEL（089）913-0608㈹
マックスサービス㈱札幌	〒060-0041	札幌市中央区大通東６－12－８	TEL（011）231-6487㈹
マックスサービス㈱仙台	〒984-0002	仙台市若林区卸町東２－１－29	TEL（022）237-0778㈹
マックスサービス㈱高崎	〒370-0031	高崎市上大類町４１２	TEL（027）350-7820㈹
マックスサービス㈱埼玉	〒331-0823	さいたま市北区日進町３－421	TEL（048）667-6448㈹
マックスサービス㈱名古屋	〒461-0025	名古屋市東区徳川１－11－23	TEL（052）935-8210㈹
マックスサービス㈱大阪	〒553-0004	大阪市福島区玉川１－３－18	TEL（06）6446-0815㈹
マックスサービス㈱広島	〒733-0035	広島市西区南観音７－11－24	TEL（082）291-5670㈹
マックスサービス㈱福岡	〒812-0006	福岡市博多区上牟田１－５－１	TEL（092）451-6430㈹

●マックスお客様ご相談ダイヤル（無料） **0120-228-358**

月～金曜日 午前9時～午後6時

『ナンバーディスプレイ』を利用しています。

●住所、電話番号などは都合により変更になる場合があります。

040830-00/01